現在からおよそ1万3000年前、氷河期が終わる。
温暖化が起こり、人々は洞穴を脱出し村を作り集団で生活を始める。
食料を採取し、それを煮たり蓄えたりするために土器が使われるようになった。
土器はもちろん、礼拝のために土偶なども作られ、1万年の時を経て様々な進化を遂げている。

縄文時代は、以下の6つで成り立っている。

- 草創期
- 早期
- 前期
- 中期
- 後期
- 晩期

どうしてこのように分けられたのか。実は、「土器」が関係している。

縄文時代に作られた土器は、この6つの期間それぞれで異なった特徴を持っている。
つまり、この時期区分は、「土器の種類による区分」ということを頭に入れておく。
縄文時代を単純に6等分したわけではないので注意だ。

それぞれの区分での土器の特徴

縄文土器の全体的な特徴として、以下が挙げれれる。

- **低温で焼かれている**
- **黒褐色**
- **厚手**

しかし、土器の形や文様は時期によって大きく異なる。

草創期

約1万2000年前のものとされる、**歴史の中でも最も古いレベルの土器。**
丸底で深い形をしている。さらに、粘土をひも状にしてくっつけた文様が特徴（**隆起線紋土器**ともいう）。

早期

画像のように、草創期のものと比べて**先端が尖っている**（尖底深鉢土器）。
草創期の土器が丸底だったために地面に置いたりすると不安定だったが、**早期の土器は地面に先端を差し込んで使うようになった。**

前期

平底になって、置いても安定する形に。**「縄の紋様」が非常に鮮明になって、口の部分も豪華になってきた。**縄をコロコロ転がして紋様をつけた。これが、縄文という名前の元となった。

中期

ここにきて**一気に装飾が豪華に**。
この土器は炎が燃え盛るような形をしているため**火炎土器**とも言われている。粘土を貼り付けることで模様を作った。
また、草創期から中期にかけてだんだん土器も**大型化**してきている。

後期

後期に入ると、**今までと打って変わって小型化し、実用性がアップ**した。
デザインも落ち着いているのが特徴として挙げられる。

画像の土器は**注口土器**と言われる。

晩期

晩期では後期よりもさらに**小型化、**かつ**芸術性の高い土器**に昇華した。
模様も複雑化して、より精巧になった。土器に木の棒で絵を描くようになった。

画像の土器は**亀ヶ岡式土器**と呼ばれるものだ。

《縄文時代》

A、縄文文化の成立

1　**約1万年前**…地質学上では**完新世**と呼ばれる
気候の温暖化→**縄文文化**の発生

2　**大森貝塚**（東京）…**モース**（米）→発見のきっかけ

3　**縄文時代**…約1万2000年前～約2300年前
・約1万年間

4　**特色**…（**縄文土器・磨製石器**の使用
弓矢の発明）

5　狩猟・採集による獲得経済を基盤としていたが、土器や磨製石器を使用していたため、
世界史的には新石器文化

B、縄文人の生活

1　**日常生活**…**竪穴**（たてあな）**住居**
・**貝塚**…貝殻や獣骨を捨てた
・漁労（ぎょろう）の発達…**骨角器**（釣針・銛（もり）・やす）、丸木船や網も使用
（石錘、土錘）

2　**交易の存在**…**黒曜石**（長野県和田峠など）
ひすい（硬玉）（新潟県姫川流域）

3　**社会生活**…貧富の差・階級の差のない比較的平等な社会
・獲得経済→余剰生産物の蓄積が不可能
・証拠…住居の規模・構造がほぼ同じ
（埋葬が共同墓地、副葬品はない）

4　**信仰…アニミズム**（自然物や自然現象に霊威を認める）
・呪術的遺物…**土偶**（どぐう）（女性を型どったものが多い）・**石棒**（せきぼう）
・呪術的風習…**屈葬**（くっそう）（埋葬形式）・**抜歯**（ばっし）（成人になる通過儀礼）

5　**縄文時代の代表的遺跡**
・**三内丸山遺跡**（青森）…前～中期・亀ヶ岡遺跡（青森）…晩期
・貝塚…加曽利（千葉）、大森（東京）、鳥浜（福井）

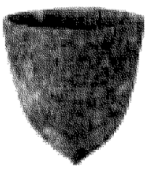
〈縄文土器の変遷〉

	文　様	器　形	色　調	
草創期	豆粒（とうりゅう）文・隆起線文・爪形文・押圧縄文	深鉢・薄手。精巧な成形で焼きもよくしまってかたい	褐色または黄褐色	前11000年～
早　期	棒巻縄文・撚糸（よりいと）文・廻転押型文が多い	器形は一般に簡単であり、いわゆる**尖底土器**が大部分である	褐色または黄褐色	前7000年～
前　期	縄文・羽状縄文の盛行	深鉢形が多いが平底となり、浅鉢形も出現。波状口縁の流行	赤褐色	前4000年～
中　期	東日本では隆起線文、関西では縦に走る縄文竹管や櫛状による文様、九州では口縁部以外縄文なし→地域差の出現	円筒形の深鉢形・浅鉢形を主とし、量感に富む	赤褐色または褐色	前3000年～
後　期	擦消縄文の盛行	器型の変化いちじるしい（深鉢・浅鉢・台付鉢・皿・注口土器など）	褐色または黒色	前2000年～
晩　期	線描の直線的なものおよび無文。ただし東北では**亀ヶ岡式土器**（器形が複雑で独特の模様をもつ）	器形の変化いちじるしい（各種の壺・注口土器・深鉢・浅鉢・台付の深鉢・浅鉢・皿など）	褐色または黒色	前1000年～前400年

（草創期）

隆起線文土器

（早期）



尖底土器

（前期）

平底深鉢

（中期）

火炎土器

（後期）

注口土器

（晩期）

亀ヶ岡式土器